



## 公正な世界

どこの職場でも、いろいろな立場があります。  
雇う側からしたらこんなに気を遣っているのに、雇われている人から「ここはブラックです」と言われてしまうことがあります。  
お客さんへのサービスを最優先にしている店員さんは、同僚から「そんなにされたら、うちらもやらなきゃならないからやめて」と怒られたりもします。

昨今は、社会が多様化しているからこそ「対話が大切」とよくいいますが、対話を嫌う人も増えています。  
メールやSNSで、自分の意見に賛同してくれる人を集めてから、意見の合わない相手に立ち向かうというやり方が、職場でも学校でも、場合によっては、ご家族のあいだでも行われているようです。  
確かに、昔から『根回し』というやり方は使われてきましたが、それは語源の通り、植物の植え替えをする際、丁寧に根の処理をするように、関係者を説得、できるだけ納得してもらおうための手段だったはずで

人の価値観や感じ方や考えが、それぞれ違っていることは、社会の可能性を広げてよいのですが、それは同じゴールを目指して協力しあった場合の話であって、対立を生んでしまえば社会が分断されてしまいます。  
日々のニュースで挙げられるのは、国と国の小競り合いであったり、被害者と加害者の互いの主張であったり、選挙に出馬する立候補者どうしの意見の違いであったり、そして、それらの対立構造になった両者にそれぞれ支持する人がつき、今度はお互いの支持者どうしが対立関係になるという様子が目立つようになりました。  
確かに、昔から巨人阪神戦とか、早慶戦とか、好敵手がたたかう姿をファン同士が応援し、ときにいがみ合い、一喜一憂するということはありましたが、最近、それとは違うムードを感じてしまうのは私だけでしょうか。  
それでも、まだ、誰かを応援したいとか、かばいたいという思いには人間の善の部分が現れている気がします。

あなたは『スパイト行動』という言葉をご存じでしょうか。  
簡単にいえば「誰かが得をすることを自分が損をしても邪魔したい」という行動です。  
この現象を検証する様々な研究があるのですが、どうやら、日本人が、一番、この『スパイト行動』をとりやすいといわれています。

日本人はといえば、ワールドカップやオリンピック観戦で、サポーターがごみを持ち帰ることや、災害時などに、暴動が起きず、順番を守って並んでいる姿などが海外で話題にされたりします。  
この行動は社会秩序を保つうえで、とても素晴らしいことですが、違う角度から見ると『スパイト行動』の行動原理に関係しているといえます。  
日本では、外国と比べて、みんなと同じように行動することが望ましいとされることが多々あります。  
自分の気持ちや考えがあっても、周囲のようすをうかがい、合わせることが無難だとされます。これは同調圧力ともいわれます。  
逆にいえば、みんなと違う意見を声高に主張したり、周囲を動揺させる行動は良くないことだとされることが多いです。





自己主張や損得勘定の強い国のそれとは異なり、日本人の『スパイト行動』の根底には、ただ意地が悪いということだけでなく、『正義感』のようなものが見え隠れしています。それは、ネットの書き込みで誰かを非難、糾弾している場面や、街で歩きスマホをしている人にわざとぶつかりに行く人たちにみられます。

「誰かが得をするのを自分が損をしてでも邪魔をする」から「自分が我慢をしていることを我慢していないやつが許せない」や「目立った行動で秩序を乱す者には制裁を」というものまで含んでいるように思われます。

悪意や敵意ではなく、『正義感』からの行動は、ちょっとやっかいです。

『スパイト行動』が、自分ためではなく、世の中のためという錯覚に陥るかもしれません。

行き過ぎた『正義感』をつくりだす仕組みに、『公正世界バイアス』があります。これは「頑張った人は報われる」や「悪いことをすればバチが当たる」などを信じる傾向のことです。

これらも社会秩序の維持に貢献する考え方ですが、この信念が強すぎると、犯罪被害者に対して、厳しい批判を向ける人になります。

何故なら、この世界は公正に出来ていることが前提ですので、「成功は、良い人が努力の成果」であり、「失敗は、怠けた人の報い」という考えに至るため、「犯罪被害者は、注意を怠った」という発想になるようです。

『世界は公正である』という信念を維持するためには、「気をつけていれば被害に合うことはない」となるわけです。

ややこしいことに、このバイアスや信念は、被害に合われた側の人にも「私が、そんな目に合うはずがない」などと油断をさせてしまうこともあります。

さらに、このバイアス問題の難しいところは、道徳観や信仰心があついにみられることです。

または、専門家や、権威的な人の意見を鵜呑みにしやすい人にも当てはまります。

自分の信念が矛盾しないためには、出来事を歪めて捉えるか、それがうまくできないときには、絶望して極論にはしる人もいます。

「じゃあ、どうすればいいんですか？」

毎日のようにお聴きする言葉です。

その声にどのように応えたら、『対話』になるか、それが私の現在のテーマです。

発行 本山社会保険労務士事務所 東京都杉並区井草1-2-11-302

発行年月日 令和7年7月

\*筆者は現在クリニックでカウンセラーをされています。

仕事の関係上氏名の公表は控えさせていただきます。

Copyright (C) 2025 本山社会保険労務士事務所 All Rights Reserved

